2012年9月27日
公益財団法人ヤマト福祉財団

［気仙沼水産加工業協同組合　仮設水産加工場施設設備整備事業］

組合員全員の目標は、震災前の売上げ達成
仮設水産加工場施設の竣工式が執り行われました

9月25日、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金」の第5次助成先の一つである気仙沼水産加工業協同組合（宮城県気仙沼市）の気仙沼市仮設水産加工場施設（助成金1億7,700万円を敷地整備費用・機器類整備費用･車両購入費用などに充てる）が完成し、竣工式が行われました。

気仙沼市は全国一の生鮮カツオをはじめ、マグロ、サンマ、サメ類などの水揚げが豊富であり、水産加工業は地域の主力産業として活気に満ちていました。ところが、東日本大震災の津波により壊滅的な被害を受け、数十年を積み重ねてきた水産加工業の施設、設備、加工品、原材料のほとんどを流失。気仙沼水産加工業協同組合及び加盟9社は、気仙沼市が建設する仮設水産加工団地に入り、再建を誓い合いました。しかし、敷地整備や内装工事、機器設備類などの費用は事業者へ重い負担となりました。そこで本助成を活用し、水産加工場として機能するための整備を進めてきました。そして今年9月、すでに操業を再開している7社に加え、残り2社の再開のめども立ち、晴れて竣工式を執り行うこととなりました。

竣工式で母体田地区水産加工団地の会会長村上祐一氏は「多くのお客様から激励のお手紙をいただき“まだ商品を通じてお客様とつながっている”喜びを感じ、立ち上がることができました。まだ再建ははじまったばかりですが、みなさまの期待と信頼に応え、かつての活気を取り戻し、震災前の売上達成を目標に頑張ってまいります」と挨拶されました。

再スタートの成功を願ってテープカット
(写真左から3番目　有富理事長）

気仙沼市内最大の水産加工団地
・敷地面積4,678㎡
・建物　鉄骨ﾌﾟﾚﾊﾌﾞ造り　2階建て4棟、平屋建て1棟
延床面積2,901㎡

母体田地区水産加工団地内敷地をｱｽﾌｧﾙﾄで舗装整備

施設設備例／内装をはじめ冷蔵庫、フカヒレの梱包圧縮機等

施設設備例／
ボイラー室を設置

施設設備例／
加工団地の排水処理施設
50トン／日の処理能力を持つ